

閨閥を武器に政財界を牛耳る一族！欲望の
肉体を華麗なる衣で覆う爛熟の上流社会！

東宝

KAREINARU—ICHIZOKU



華麗なる一族

《カラー作品》

4月20日のゴールデン・アンコール・ショウ

国電有楽町駅前
(そごう側)
有楽町ビル内

有楽町

スバル座

(212)
2826

■解説

「華麗なる一族」は金融界の「聖域」銀行を舞台に、背後で暗躍する政、財界の黒い欲望に大胆なメスを入れた山崎豊子の話題のベストセラー小説を巨匠、山本薩夫監督が映画化する衝撃の超大作。

富と権力獲得への手段として、華麗なる閥閥をはりめぐらす万俵一族。限らない人間の欲望、背信、父と子の血の疑惑、妻妾同居などハイソサエティの厚いカーテンの奥に複雑怪奇に展開する苛酷な人間ドラマの面白さは抜群です。

配役も万俵大介の佐分利信以下、月丘夢路、京マチ子、仲代達矢、山本陽子、田宮二郎、香川京子、酒井和歌子、北大路欣也、二谷英明、目黒祐樹、中山麻理、大空真弓らの豪華キャストが勢揃い。三億五千万の巨費を投じて製作する堂々3時間30分の衝撃の超巨篇です。

■キャスト

万俵 大介	佐分利 信
〃 寧子	月丘 夢路
〃 鉄平	仲代 達矢
〃 早苗	山本 陽子
〃 銀平	目黒 祐樹
〃 万樹子	中山 麻理
〃 二子	酒井 和歌子
美馬 中	田宮 二郎
〃 一子	香川 京子
高須 相子	京 マチ子
三雲 祥一	二谷 英明
〃 志保	大空 真弓
一之瀬四四彦	北大路 欣也
佐橋総理大臣	伊東 光一
永田大蔵大臣	小沢 栄太郎
田淵幹事長	河津 清三郎

山崎豊子原作(新潮社版)
山本薩夫監督作品

華麗なる一族

製作・市川喜一・森岡道夫 / 脚本・山田信夫 / 芸苑社製作 / 東宝映画 協力 / 東宝配給 / カラー作品



■物語

志摩半島の英虞湾に臨む志摩観光ホテルのダイニングルーム。華やかな正月の盛装の人々の中にあつて群を抜いて際だった一組がいた。この一族は関西の財界にこの人ありと知られている阪神銀行頭取、万俵大介とその家族である。鋭い眼光、端正な銀髪の大介が正面の席に坐りその左側に華族出身の妻寧子、右の席に家庭教師兼執事の高須相子、寧子の隣りに精悍な顔の長男鉄平と妻の早苗、その隣りに次男銀平、相子の隣りに次女の二子。大介がオールドブル用のフォークを取れば、一族の手が静かにフォークに延び大介の手が止まれば申し合わせたように一族がそれに倣い、万俵家の厳然たる家長長制が遺憾なく示されていた。

年末から新年にかけての四日間をこのホテルで一家揃つて過すのが万俵家の長年の慣例であつた。
金融再編成のニュースが新聞紙上にもとりあげられ、万俵大介の心中は穏かでない。効率の悪い銀行が落伍しよよいところに吸収、合併されるのだ。預金順位全国第十位の阪神銀行にとつてこれは重大関心事である。大介は長女一子の夫、大蔵省主計局次長美馬中に命じ金融再編成の極秘情報を得て、なんとか阪神銀行を有利な条件で他行と合併させようと決意した。勿論、大蔵大臣永田に対する政治献金も抜け目なく行つていた。長女を美馬のもとに嫁がせたのも万俵家の閥閥作りの一端であつた。

この閥閥作りを演出しているのは高須相子。彼女は夫大介の妻が世間知らずのお姫さま育ちであることから、ここ二十年來、子供の教育は勿論、万俵家の家計に至るまで、すべての実権をにぎつていた。阪神銀行本店の貸付課長である次男銀平を大阪重工社長、安田太左衛門の娘万樹子の結婚させたのも、恋人のいる次女二子を佐橋総理大臣の甥と見合させたのも彼女の手腕だつた。しかも相子は夫大介の愛人として、妻寧子と一日交替でベツトを共にしているのだつた。

長男の鉄平は万俵コンツェルンの一翼をになう阪神特殊鋼の専務として活躍する鉄鋼マンだが自社に高炉を建設し、阪神特殊鋼の飛躍的發展を夢みていた。彼はメインバンクである父、大介の阪神銀行に融資を頼んだが、大介は何故か鉄平に冷淡だつた。大介の父、大介に容貌も性格も似た鉄平を見るにつけ、大介の胸には暗い記憶がよみがえる。大介は、嫁いで間もない妻寧子を父、大介が犯したと信じ、その後、生まれた鉄平を父の子と思ひつけて居るのだ。

鉄平に好意をよせる大同銀行三雲頭取の計らいで、なんとか建設資金を得た鉄平は妻早苗の父、自由党人派領袖、大川一郎の口ききもあつて遂に念願の高炉建設にとりかかつた。しかし完成を間近に、突然高炉が大爆発、死傷者多数という大惨事を起した。ガツクリきた鉄平をさらに驚愕させる事実が三雲頭取から知らされた。阪神銀行の融資は見せかけ融資だと云うのだ。メインバンクとサブバンクの融資比率の逆転!

大同銀行は阪神特殊鋼への不正融資を衆議院の大蔵委員会で追求され三雲頭取は失脚した。多額の負債をかかえた阪神特殊鋼は遂に会社更生法の適用を受けざるをえなかつた。事実上の破産である。
妻子を家へ帰した鉄平は、愛用の銃を手に雪山で壮烈な自殺を遂げた。皮肉にも鉄平の血液型がB型であることが解つた。鉄平は大介の実子だつたのだ。
二子は総理の甥との婚約を自ら破棄して、アメリカに居る恋人、一之瀬四四彦のもとに飛んだ。

大介の筋書通り、阪神銀行は上位行の大同銀行を吸収合併し、新たに業界ランク第五位の東洋銀行が誕生、大介が新頭取に就任、念願の東京進出を果たした。
小が大を喰う銀行合併劇を、あらゆる犠牲を払つて実現した万俵大介の得意満面の笑顔。しかしその背後には、さすがの大介にも考え及ばぬ第二幕が静かに暗転しつつかつたのである。